

保健体育科学習指導案

令和元年 11 月 27 日(木) 第 4 校時 体育館
第 3 学年 1・2・3 組 男子 15 名 女子 18 名 計 33 名
指導者 教諭 村上 一博
教諭 加藤 雄輔

1 単元名 「球技」(ネット型・バレーボール)

2 運動の特性

(1) 一般的特性

バレーボールは、ネットを挟んで相対するチームが、ボールを主に手で扱いサーブ・レシーブ・トス・スパイク・ブロックなどの技能を活用して相手のコートに打ち込む種目である。ボールを手で持つことができず、ノーバウンドでパスをしなければならない。

(2) 生徒から見た特性

なぜバレーボールを選択したか。	
・WCを観てやりたいと思った。	・1年生の時に楽しかったから。
・漫画を見てやりたいと思った。	・背を生かしたかった。
バレーボールの授業で何を期待するか。	
・スパイクやブロックをできるようにしたい。	・一連の流れで攻撃したい。
・きれいにパスをつなぎたい。	・ラリーがしたい。
バレーボールの楽しさや喜びを感じる要因	バレーボールを遠ざける要因
○チームプレイが楽しい。	●痛い。
○仲間と協力して一体感が生まれる。	●続かない。
○点が決まったときにみんなで喜べる。	●怪我が怖い。

3 生徒の実態(省略)

4 教師の指導観

(1) 技能

選択制なので、基礎的な技能が定着している生徒が多い。3年次の最後には正規の大きさのコートで、サーブカットから3段攻撃をし、得点を競う攻防のあるゲーム展開をさせたい。

(2) 態度

昼休みにも円陣パスの様なことを自主的に行う生徒もいて、バレーボールへの親しみはある。しかしボールコントロールが難しく、ボールに触ることを避けてしまう生徒もいる。ミスを気にせず積極的にボールを追えるようにしたい。

(3) 知識、思考・判断

仲間との関わりの中で、学習した知識や技能を活用し、協働的に課題を解決することで全員をチームに貢献させたい。また、得意・不得意なども踏まえながら、生涯にわたってバレーボールに親しむ方法を一人ひとりに考えさせたい。

5 単元の目標

(1) フェアなプレイを大切に、勝敗を競う楽しさや喜びを味わうことができるようにする。

【関心・意欲・態度】

(2) 学習した知識や技能を活用してゲームをしたり、自己やチームの課題に応じた運動の取り組み方を工夫したりすることができるようにする。

【知識、思考・判断】

(3) 仲間と連携して、「拾う、つなぐ、打つ」の一連の流れで攻撃を組み立てることができるようにする。

【技能】

6 単元及び学習活動に即した評価規準

	運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
単 元 に 即 し た 評 価 規 準	バレーボールの楽しさや喜びを味わうことができるよう、フェアなプレイを大切にしようとする事、自己の責任を果たそうとする事、作戦などについての話し合いに貢献しようとする事などや、健康・安全を確保して、学習に自主的に取り組もうとしている。	生涯に渡ってバレーボールを豊かに実践するための自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。	バレーボールの特性に応じて、ゲームを展開するための作戦に応じた技能や仲間と連携した動きを身に付けている。	技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法、試合の行い方を理解している。
学 習 活 動 に 即 し た 評 価 規 準	①球技の学習に自主的に取り組もうとしている。 ②フェアなプレイを大切にしようとしている。 ③お互いに助け合い、教え合おうとしている。	①提供された作戦や戦術から自己のチームや相手のチームの特徴を踏まえた作戦や戦術を選んでいる。 ②仲間に対して、技術的な課題や有効な練習方法の選択について指摘している。 ③作戦などの話し合いの場面で、合意を形成するための適切な関わり方を見付けている。 ④バレーボールを継続して楽しむための自己に適した関わり方を見付けている。	①サービスでは、ボールをねらった場所に打つことができる。 ②ボールを相手側のコートに空いた場所やねらった場所に打ち返すことができる。 ③攻撃につなげるための次のプレイをしやすい高さや位置にボールを上げることができる。 ④腕を強く振ってネットより高い位置から相手側のコートに打ち込むことができる。 ⑤関係プレイのための基本的なフォーメーションに応じた位置に動くことができる。	①運動観察の方法について、理解したことを言ったり書き出したりしている。 ②試合の行い方について、学習した具体例を挙げている。

7 単元の計画

(1) 領域の取り上げ方

学年/運動	バレーボール	ハンドボール	バスケットボール	サッカー	ソフトボール	バドミントン
第1学年	7	7			7	
第2学年			7	7		7
第3学年	1 2		1 0	1 0	1 2	

※第1・2学年においては、2年間で全ての方を履修。

※第3学年球技1及び武道では「バレーボール」「ソフトボール」「柔道」から1種目選択。

(2) 運動種目（省略）

(3) 指導と評価の計画

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	⑩	11	12	
ねらい	授業の流れを覚えよう。	アンダーハンドとオーバーハンドを思いだそう。	サーブとスパイクを思いだそう。	苦手な個人技能を向上させよう。	3段攻撃に挑戦しよう。	チームや個人の課題を解決しよう。	ポジションに応じた動きをしよう。	自分のチームに適した戦術を選択しよう。	試合のルールやマナーを覚えよう。	ゲームの中でねらった場所に打ち返そう。	まとめの試合をしよう。		
指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ・約束 ・基本技能の復習 ・役割分担 ・試しの運動 ・自己観察と他者観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・感覚つくりの運動 ・基本技能の復習 ・アンダーハンド ・オーバーハンド 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本技能の復習 ・サーブ ・スパイク ・サーブプレシ ・トス 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人技能の練習（ねらった場所に打つ） ・構え ・体の向き 	<ul style="list-style-type: none"> ・3段攻撃 ・チーム練習 ・チームや個人の課題を見付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3段攻撃 ・個人の課題解決練習 ・チームの課題解決練習 	<ul style="list-style-type: none"> ・ポジショニング ・役割の確認 ・チームの課題を見付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・チームの課題解決練習 ・作戦の選択 	<ul style="list-style-type: none"> ・試合のルールの学習 ・審判の仕方 ・フェアプレイ 	<ul style="list-style-type: none"> ・3段攻撃の練習 ・ラリー練習 ・フォーメーション ・簡易ゲーム 	<ul style="list-style-type: none"> ・3段攻撃 ・フェアプレイ ・公正公平な審判 		
学習過程	1 オリエンテーション	1 準備、出席確認 2 集合・整列・挨拶 3 ランニング、準備運動、補強運動 4 感覚作りの運動 5 本時のねらいと内容の確認											
	2 チームの役割分担 3 感覚作りの運動 4 整理運動 5 本時の振り返り 6 挨拶 7 片付け	6 基本的な技能の復習 ・アンダー ・オーバー ・田陣パス	6 基本的な技能の復習 ・サーブ ・レシーブ ・トス ・スパイク	6 基本的な技能の選択練習 ・アンダー ・オーバー ・サーブ ・レシーブ ・トス ・スパイク	6 3段攻撃の練習 ・サーブカット ・トス ・スパイク	6 3段攻撃の練習 ・サーブ ・サーブカット ・トス ・スパイク	6 ポジション ・ローテーション ・ポジショニング 7 自分の役割を決める ・セッター ・アタッカー	6 例示された作戦から選択する 7 選択した作戦の練習	6 試合のルールの確認 7 練習とミニゲーム	6 チーム練習 7 ミニゲーム	6 チーム練習 7 試合	7 集合・健康観察 8 整理運動 9 本時の振り返り 12 次時の予告・挨拶 12 片付け	
評価の計画	関	①					③				②		
	思				③	②		①				④	
	技		①	①		④				②	⑤	③	
	知	①							②				
	方	カード	観察	観察	観察	カード	観察 カード	観察	観察 カード	カード	観察	観察	カード 観察
	場	6	6	6	6	9	6 9	6	6 7	10	6 7	6 7	7 10

8 本時の学習と指導 (10/12)

- (1) ねらい ボールを相手側のコートの空いた場所やねらった場所に打ち返すことができる。【技能】
 (2) 準備 バドミントンコート6面 ボール 学習カード ホワイトボード
 (3) 展開

段階	学習内容・活動	指導上の留意点 (○指導 ◆評価規準)	
		T1	T2
導入 10分	1 準備、出欠確認	○リーダーにチームの報告をさせる。	○係を中心に、安全に配慮して協力して行わせる。
	2 集合・整列・挨拶	○全体で元気よく正確に行わせる。	○全体の健康状態を確認し、授業の準備を整えさせる。
	3 ランニング、体操、補強運動	○技能のポイントを意識しながら行わせる。	○技能のポイントを意識しながら行わせる。
	4 感覚づくりの運動		
展開 30分	5 本時のねらいと内容の確認	ゲームの中で、ねらった場所に打ち返そう。	
	6 チーム練習 ●練習例 ・3段攻撃の練習 ・ラリー練習 ・ローテーションの確認 ・レシーブ練習	○男子チームを中心に指導する。	○女子チームを中心に指導する。
	7 ミニゲーム ・他チームとバドミントンコートでミニゲーム ・1チーム2人～4人 ・試合時間は3分～4分	◆ボールを相手側のコートの空いた場所やねらった場所に打ち返すことができる。 【技能】	
		△努力を要すると判断される状況 (C) の生徒への指導の手立て ・ボールを返したい方向に体や足のつま先を向けさせる。 ◎十分満足できると判断される状況 (A) の生徒の具体的な姿 ・緩急や高低を付けてボールを打ち返している。	
整理 10分	8 整理運動		○動かした筋肉や部位を意識して行わせる。
	9 集合・健康観察	○怪我や体調不良者の確認をする。	
	10 本時の振り返り	○本時のねらいの達成状況を振り返らせる。	○ねらいを達成できている生徒を称賛する。
	11 次時の予告・挨拶	○次回の授業の見通しを持たせる。	
	12 片付け		○安全に協力して片付けさせる。